

2007
6/15
Fri.
朝日

緑と昭和史、残して

元首相の「目白御殿」物納地

戦後政治の「自撃者」、旧「目白御殿」の正門と木々がなくなる。東京都文京区が同区目白台に整備する「(仮称)目白運動公園」をめぐり、周辺住民は十四日、樹木の伐採や門の撤去をやめるよう成沢広修区長に要望した。区は、伐採数を減らすことで理解を求めたが、住民側は「都市の貴重な緑。もっと区民の意見を聞くべきだ」と訴えている。

舞台は、故・田中角栄 する。

元首相宅の敷地だった約二平方キロ。一九九〇年度に、この物納地と隣接代中ごろ、田中家が相続の国家公務員共済組合連税として国に物納した。合会の運動場(二・八シイの大木やクロマツな 杉)を計約百四十四億七と七十二本が自然林のよ 千万円で取得。本年度かうなたたすまいを見せら約七億円の事業費をかる。八七年、後に首相とけ、区立公園として整備なる故・竹下登自民党幹を始めた。「目白御殿」事長(当時)が門前払い、駐車場と導入路、芝された正門も残っていない 生広場とする予定だ。



区の公園整備 樹木や門、住民が保存要望



田中家物納地の樹木
田中家正門を見学する住民ら。この門も撤去される予定。いずれも文京区目白台で



目白御殿 東 京・目白台にある田中角栄元首相の私邸。陳情や政治家の来訪が後を絶たなかった。ニクソン米大統領、中国の最高実力者鄧小平氏らも門をくぐった。物納地の隣接地には田中真紀子さん、直紀さん夫妻の居宅がある。

住民側は五月下旬に伐採計画を知り、「文京区のみどりを守る会」を結成、約千人の署名を集めて今月四日に計画見直しを要望。区は四十五本を伐採する方針を改め、伐採を二十九本にとどめ、九本を移植する変更案を住民側に示した。門は撤去する。

区の方針について、守面に理解を求めている。遠藤道雄・区みどり公園課長は「住民参加の検討会を経るなど、手続きは踏んでいる。できる限り要望は反映させるが、子供の遊び場が死角になつてはいけない」と安全